

# 労使研

労使関係研究協会

〒105-0014東京都港区芝2丁目  
20番12号（友愛会館8階）

電話：03-3453-5386

FAX：03-3451-1710

関西支局

〒550-0001大阪市西区土佐堀  
1丁目6番3号

（JAM西日本会館内）

電話：06-6225-2881

「情報」第54号 2018年1月

## 賀 正



本年もよろしくお願いたいたします

## 2018年の新春を迎えて

2018年の新春を迎えて、一言ご挨拶を申し上げます。



財団法人日本労働会館が昭和6年にスタートして、87年目の春を迎えます。新しく会館が建て替わって8年目、法人法の改正に伴い一般財団法人日本労働会館としてリスタートして7年目となります。

公益事業では、友愛労働歴史館を中心に運営を強化し、延べ8千人を超える来訪者を迎えることができました。労働運動の歴史を伝えるべく、公益法人としての機能を実現できたと自負しております。これもひとえに、諸先輩を始めとして、関係者及び関係団体の皆様の、ご支援の賜物として、改めて御礼を申し上げます。

同時に、戦後の労働運動に寄与された方々の思いを語っていただくということでスタートした労働講座もこの7年間で、25回の講座を開くことができました。今後も記録に残していく努力を継続してまいります。また労使関係や労働運動の活動について、研修や講演も適宜行っていきたいと考えております。

唯一の収益事業としてスタートした宿泊事業は、停滞局面を迎えています。国の積極的な観光事業の推進で、海外からの顧客が増大しています。しかし昨年からは東京オリンピックを控えて、ホテルが乱立、都内では過当競争の様相を呈しています。一昨年からは稼働率も単価の上昇も止まり、極めて難しい状況にあります。今年は改めて稼働率の回復に努めていきたいと思っています。

友愛労働歴史館及び労使関係研究協会では、公益目的支出計画に基づいた支出をしつつ、宿泊事業も適正な運営と収益が求められます。一般財団法人固有の難しい運営を迫られているわけですが、今後も日本労働会館の存続を念頭に適切な対応を模索していきたいと考えます。

改めてのご支援をお願い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

一般財団法人日本労働会館  
理事長 小出 幸男

# 労使関係研究協会の活動(2017年9月～12月)

## 第25回労働講座

日 時：2017年9月26日

場 所：友愛会館8階・友愛労働歴史館研修室

テーマ：「民主的労働運動と共に」

講 師：元ゼンキン連合 書記長・副会長 相馬 末一

相馬氏は労昭和38年2月、総同盟・全金同盟神奈川金属労働組合（神金）入局、以来36年間の現場に根差した民主的労働運動を語っていただいた。

当時の神金には総同盟精神が色濃く残り、県下に大きな勢力を有していた。総同盟精神とは現場主義であり、相互扶助（共済活動）、民主主義の徹底である。現場主義とは労働運動は人に会ってなんぼの世界であり、現場に放り込むことによって人を育てる場でもあった。神金時代は組織拡大に奔走した。中立労組へのオルグ、地域組織への直加盟、そして中小を中心とする新組合結成など。また企業移転、新工場建設などの組織拡大構造変化への対応も欠かせない活動だった。

昭和45（1970）年に全金同盟本部に移籍した。全金同盟が真価を発揮した分野は中小労働運動の強化と育成で、日常活動を通じての支援と指導が必要だった。また中小関係法の充実と拡充、ものづくり基本法の制定など政策要求と政策活動による支援活動も強化した。

全金同盟からゼンキン連合へ名称変更を行い、組織活動は柔軟思考優先でいくこととした。複合産別化への道を開き、中立大手、業種別組織に留まる中立労組対策を強化、大手未組織企業の組織化を行った。同時に倒産・合理化への対応にも迫られた。雇用確保闘争による組織維持を図りつつ、雇用関連法や会社更生に関する法の充実と拡充もはかった。

民主化運動の推進にも精力を傾注した。東京計器・日本電子・北辰電機の民主化運動は身も心も、込めた人の絆を強めるものだった。そして本山争議は、正しいあるいは正常な労働運動とは何かを発信した争議であった。働くこと、人間らしく生きること、団結することの重要性を痛感させられ、労働組合はなぜ必要かを問うたものであった。

そしてJAMへの統一は未来志向で進められた。統一運動は組織拡大のチャンスである。事前準備を徹底して進め、相違、不安の解消は未来志向で克服してきた。統一の所産は活かしてこそ意義あるものである。

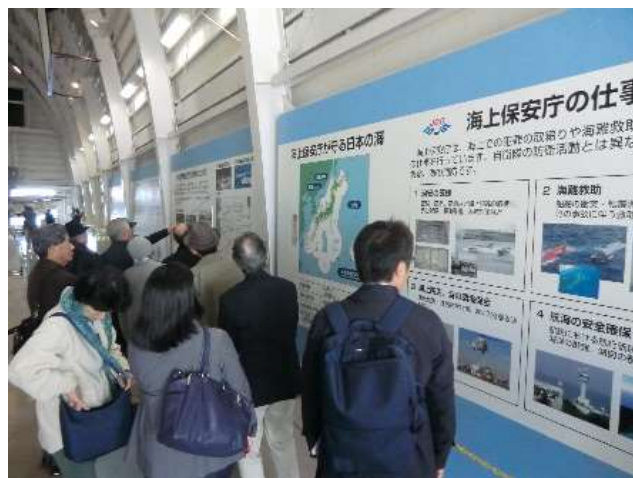
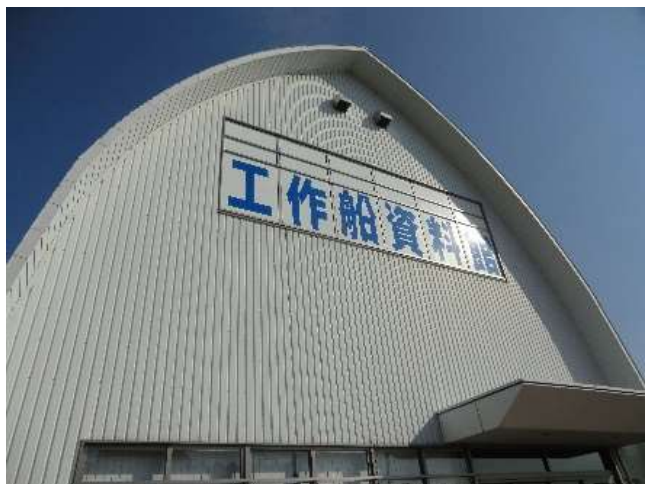


# 第82回研修会

日 時：2017年11月17日（金）

見学先：神奈川県横浜市「海上保安資料館横浜館」

海上保安資料館・横浜館は海上保安庁が、日本周辺海域の現状と海上警備の重要性などを理解してもらうために開館したもの。館内には2001年12月に発生した九州南西海域工作船事件の、工作船とその回収物が展示されている。短い時間ではあったが、北朝鮮の脅威が増す中、有意義な研修会であった。視察終了後、中華街で昼食をとり解散した。参加者は15人。



# 友愛労働歴史館の活動（2017年9月～12月）

## 1. 展示会・講演会活動について

展示会は常設展と企画展から成り、常設展「日本労働運動の100年余一友愛会・総同盟(戦前)を中心とする」は2012年8月1日の新装オープン以来、原則同一内容で開催している。

企画展は年2回の開催で2017年1月からは企画展「内ヶ崎作三郎—教育者・牧師・政治家の生涯—」（2017.01.06～06.30）を、7月からは企画展「賀川豊彦と友愛会・総同盟」（2017.7.6～12.22）を開催した。

また、企画展と連動した講演会を使関係研究協会と共催し、もしくは単独で開催している。2017年は以下の講演会（場所：愛労働歴史館研修室）を開催した。

＜友愛労働歴史館講演会＞

①名 称：「ユニテリアン牧師・内ヶ崎作三郎と友愛会」（労使研と共催）

と き：2017年4月3日（月）14：00～16：00

テーマ：「ユニテリアンの政界進出の背景を探る」 間宮悠紀雄

「内ヶ崎作三郎と友愛会」 芳賀 清明

②名 称：友愛会創立記念講座（友愛会創立を記念する会と共催）

と き：2017年8月1日（火）10：30～11：45

テーマ：「賀川豊彦と友愛会」 杉浦 秀典 賀川豊彦記念松沢資料館副館長

## 2. 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は年間を通して資料の収集を行っている。また、常設委員会を設け、調査・研究活動に取り組んでいる。2017年は以下の研究会を開催した。

①「第14回政治・社会運動史研究会」（公開報告会形式）

名 称：「全体主義と闘った男 河合栄治郎」

と き：2017年4月24日（月）14：00～16：00

講 師：湯浅 博 産経新聞論説委員

②「第15回政治・社会運動史研究会」（公開報告会形式）

名 称：「社会主義インターの歴史と現在」

と き：2017年6月23日（金）14：00～16：00

講 師：佐瀬 昌盛 元防衛大学校教授

③「第16回政治・社会運動史研究会」

名 称：「民社党時代を語る」

と き：2017年10月26日（木）14：00～16：00

講 師：西村 章三 元民社党副委員長

## 3. 情報発信・PR活動について

メールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信、友愛労働歴史館ホームページHPの更新、非公式ツイッター (@yuairekishi1912) による情報発信を行っている。友愛労働歴史館は年間を通して資料の収集を行っている。また、常設委員会を設け、調査・研究活動に取り組んでいる。



友愛労働歴史館企画展

期間 2018年

1月5日(金)~6月29日(金)

平日 10:00~17:00

二〇一八年は片山哲(一八八七・七・二八~一九七八・五・三〇)の没後40年、片山連立内閣(一九四七・五・二四~一九四八・三・〇)の崩壊から70年となります。友愛労働歴史館はこれを記念し、クリスチャン、弁護士、政治家として活躍し、戦後日本の民主化をリードした片山哲を取り上げ、企画展「戦後民主化のリーダー 片山哲」を開催します。

# 片山哲

# 戦後民主化のリーダー



街頭演説を行う片山哲

## 第1部 片山哲の生涯

1887年~1978年



大学入学当時(明治41年)「和歌館」より

クリスチャン、弁護士、また政治家として生きた片山哲は、人権の擁護と社会正義の実現をめざし、また平和と民主主義のために生涯を捧げました。彼は一方で、唐の詩人・白楽天に傾倒し、文人宰相と呼ばれました。片山哲の90年の生涯を、写真や解説パネルで紹介いたします。

## 第2部 片山内閣の誕生と崩壊

戦後の民主化に大きな役割を果たす

1947年に成立した片山連立内閣は、結果として短命に終わり、今日までその評価は必ずしも高くありません。しかし、片山内閣は女性の地位向上をめざす民法改正、労働省の設置、一連の古い政治体質の改善などの民主化政策を進め、彼は「戦後民主化のリーダー」と呼ばれています。



戦前からの盟友・和田操と片山哲



▲首相官邸で執務にあたる片山首相

▼片山連立内閣発足 1947年6月1日



内閣官房長官・西尾末廣

衆議院議長・松岡駒吉

## 第3部 片山内閣を支えた人々

鈴木義男、森戸辰男、波多野鼎、西尾末廣、松岡駒吉ら

片山首相を支えた人々に鈴木義男司法大臣、森戸辰男文部大臣、波多野鼎農林大臣、水谷長三郎商工大臣、米窪滿亮労働大臣、西尾末廣国務大臣(内閣官房長官)らがあり、また松岡駒吉は衆議院議長として片山内閣を支えました。彼らを写真や解説パネルで紹介いたします。



片山哲追悼集会、1978年

友愛労働歴史館

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 友愛会館8階 一般財団法人日本労働会館内  
TEL.050-3473-5325 FAX.03-3451-1710  
E-mail: yuaidorekikishikan@rodokaikan.org HP http://www.yuaidorekikishikan.com